

オオウミシダ（棘皮動物、オオウミシダ科）の長期間にわたる 不動の定位

Shin Kubota : Long term immobile orientation of *Tropiometra afra macrodiscus*
(Hara) (Echinodermata, Tropiometridae)

久保田 信

棘皮動物門のオオウミシダ *Tropiometra afra macrodiscus* (Hara) (Echinodermata, Tropiometridae) は、房総半島以南の太平洋側の浅海で普通に見られ、岩礁の突出部を好む(小郷, 1995)。本種は和歌山県白浜町沿岸でも普通に見られ、京都大学瀬戸臨海実験所付近の岩礁や外洋に面した瀬戸漁港にも生息する。これまで何度か本種の行動の観察をしてきたが、今回、最も長期間にわたり観察できたので報告する。

本種1個体が和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港の岸壁の潮通しのよい場所にいるのを初めて2015年7月3日に発見した(図1)。水深2mほどの地点で、最干潮時でも露出することがない所であった。その後、ほぼ毎日、最低1回、その個体(図2)がそこから姿が見えなくなるまでどのような動きをするか目視観察した。日によっては一日に何度も時間帯を変えて観察した。毎日1回の観察とカウントをして、7月に12回、8月には19回、9月には16回、10月には18回、11月は26回、12月は1回の計92日にわたり、少なくとも92回の観察を行った。12月2日まで継続して見られたが、その後は不在となった。

観察の結果は、初めて発見した居場所から全く移動することがなかった。7月と8月には台風が1回ずつ襲来し、荒天となり、台風が去ったその後の何日間も湾内が濁り、観察が不可能となったが、目視が出来た時には以前の場所から全く移動していなかった。色々な月においても一日の内の様々な時間帯でも同じ所に居たので、ある月のある時間帯に移動した後にその場所に

もどってくることはないと推察される。なお、腕の開き具合は日によって異なっているのが観察された。



図1

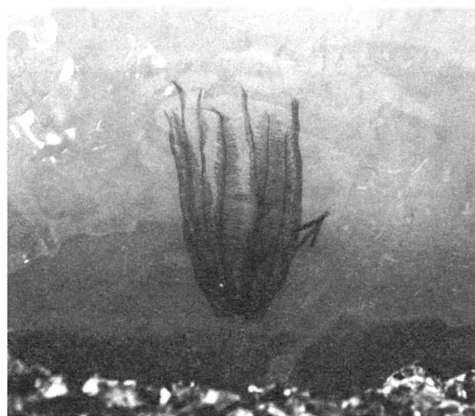


図2

図1・2 和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港の岸壁(1)において不動で定位したオオウミシダ(2)

このような不動の定位を、他の複数個体でも白浜町の異なる地点で時期も違えて目視観察やスキンドビングで確かめている。それらの観察は今回ほど長期ではないが、本種は一度定位したら、その場所をなかなか変えないといえる。

引用文献

小郷一三, 1995: オオウミシダ, 西村三郎 (編著) 原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ, pp. 511-512. 保育社会, 大阪.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所

和歌山県白浜町産の珍しい稚イセエビ (イセエビ科)

Rare juvenile *Panulirus japonicus* (Palinuridae) from Shirahama Town,
Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

2015年11月22日、白浜町の瀬戸漁港のなじみの漁師さんから小型のイセエビ *Panulirus japonicus* (Von Siebold, 1824) を頂いた。体長はわずか55mmの生まれてから1年以内の稚エビで、数日前に白浜町沿岸にしかけた網にかかったとのことで珍しいとのことである。

さっそく水槽に入れて飼育を開始した。しかし、1回も脱皮することなく、水槽のガラスが割れた事故で2016年1月27日に死亡した(図1)。この個体の頭部には大小の触角が1対ずつあり、小さな第2触角で威嚇音を発することもできる。護身用の太くて長い第1触角は1本が折れていた。胸部には海底を這う5対の歩脚があった。腹部の5対の腹肢は遊泳用で、水槽内では、驚かすと後ろ向きにすばやく飛ぶように泳いだ。人工餌を与えて元気だった。イセエビは国内では房総半島以南の岩礁域に分布し、台湾が南限とされる(峯水, 2000; 加藤・奥野, 2001)。

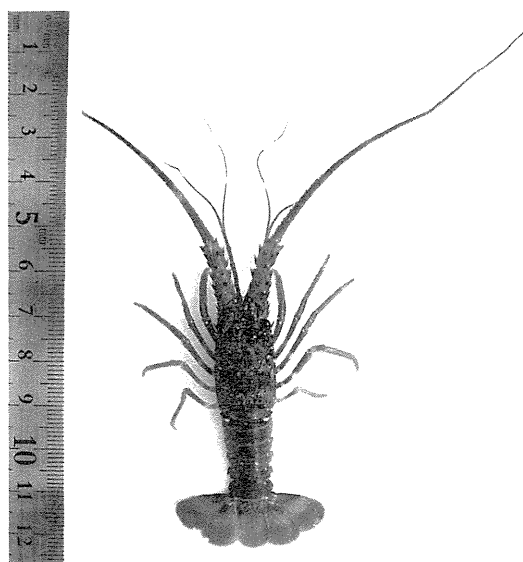


図1 2015年11月中旬に白浜町沿岸で網にかかった稚イセエビ (2016年1月27日死亡時に撮影)